

2015年大雪山の山トイレの現状 —地図調査から大雪山と他山域の山トイレ問題を考える—

佐藤 文彦（やすひろ）（（有）風の便り工房 代表）

1. はじめに（調査して思うこと）

私は主として登山地図の調査執筆を依頼され、大雪山国立公園内と芦別岳、夕張岳の現地に出かけ、実際の山の現状を地図上に反映させる業務をしております。

1999年から利尻礼文、羅臼、斜里、阿寒を、2000年から大雪・十勝連峰を調査してきて現在に至っております。その際、現地に行ってきた折々に各山域トイレ情報として報告してきましたが、2013年より「やっさんのトイレ調査情報」と題して山のトイレを考える会のHP上にアップしていただける事になり、現在に至っております。

2015年より利尻礼文と羅臼、斜里、阿寒は現地の優秀なガイドさんにお任せすることにし、お二人からも、出版社からもご快諾をいただきました。

したがって、2015年の私のトイレ調査情報は、大雪・十勝連峰、石狩連峰、ニペソツ山、ウペペサンケ山と夕張岳・芦別岳に限られる事になりました。しかし、他の業務等もあり全山域を1シーズン中に廻る事は、なかなか難しく出来そうにもありませんので、今まで通り調査域を半分くらいに分ける事になります。

そういうわけで、2015年は昨年、HPにアップされた山域になりますし、2016年は（今年は）2015年に調査できなかった山域という事になります。

さて、今まで調査してきたトイレに関して気の付いた事を二、三申し上げますと、携帯トイレブース（固定式またはテント式）、作業現場など使用される簡易トイレも含めて、立地条件があまり良くない所か、すごく条件に恵まれたところかに分かれているような気がします。

ニペソツ山の登山口簡易トイレは沢沿いで林間の少し湿っぽいところに建っており、回収ボックスも同位置にありますので、ボックスの底からは笹が侵入してきています。鍵NO・ゴミゼロ（530）の回転型錠がいつも施錠されておりますので、この事を知らない登山者は使用済の袋をボックスの傍に放置してあるのを見かけます。天狗平の携帯トイレブースはシェルターにも見えそうな板張りの頑丈なものになっています。座ると見えませんが、立ち上がるとニペソツ山の山頂が見える私のお気に入りのブースです。ただご愛敬で天井がありませんので、雨天時は傘かカッパ着用です。

また、各所の携帯トイレ使用説明書も製作会社の説明書をそのまま掲示するのではなく、各地の担当者がアイデアを出し工夫したものを製作して、思わずニコっとするものもあり楽しみの一つです。

トムラウシ山の短縮路登山口と黒岳のバイオトイレは、同じオガクズ使用のバイオトイレですが使用後の攪拌作業が違います。トムラウシ山は、大きなソーラーパネルから電源を得てスイッチ一回押すだけですが、黒岳は自転車のペダル踏み込み方式で、使用後は正回転と

逆回転に分けて攪拌しなければなりません。使用人数とか使用頻度なども大きな要因になっているとは思いますが、攪拌方式の違いも便槽内部が液体で満杯になるかどうかの一因かもしれません。

1. ウペペサンケ山トイレ調査（2015.7.12）

- ①ウペペサンケ山の駐車場は結構広く10数台は置けるスペースがあるが、残念ながら簡易トイレもトイレブースもない（写真1）
- ②ウペペサンケ山登山口は2013年林道崩壊により少し登山口が下側に変更になったが、すぐ上の最後の水場の下で合流している（写真2）
- ③1399mの小ピーク裏側のトイレ痕。ウペペでは初めての確認。パーティの中に熱中症寸前者が複数現れ手当と下山対応に時間を取られ、そのままになってしまった。ゴメンなさい（写真3）
- ④同じ場所のトイレ痕。ここもやはり同じ理由でそのままにしてしまったが、処理していないトイレ痕が呼び水になっていないか等の気がかりな点が残っている（写真4）



（写真1）ウペペサンケ山駐車場



（写真2）ウペペサンケ山登山口



（写真3）1399mピーク裏側のトイレ痕



（写真4）同じ場所のトイレ痕

2. ニペソツ山トイレ調査（2015.7.29）

- ①ニペソツ山登山口。登山届ポストもここにある。簡易トイレ2室と携帯トイレ回収ボックスも反対側にある（写真5）
- ②回収ボックス。見た目、かなり汚れているし、内部もそれなりに傷んでいる（写真6）
- ③この関係機関の内、どこかが来ているのか、登山者が清掃しているのかどちらかだと思いますが…（写真7）
- ④ボックスの蓋はナンバーを合わせる式で、530（ゴミゼロ）だった（写真8）
- ⑤ボックス内部はやはり底が抜けていて笹が生えてきていた。ゴミらしきものも混入されている（写真9）
- ⑥簡易トイレ、左が男性小便器、この構成は前と変わらず（写真10）
- ⑦男性小便器も隣の便器同様キチンとしておりました。両方とも落ち葉が入っていたので、箒もあり、掃いておきました（写真11）
- ⑧掃除道具がある所を見ると誰かが来てボランティアでやっているのかもしれませんが。ありがたい事です（写真12）



（写真5）ニペソツ山の登山口



（写真6）登山口にある携帯トイレ回収ボックス



（写真7）回収ボックスの表示



（写真8）回収ボックスの鍵NOは530



(写真 9) 回収ボックスの中。笹が生えている



(写真 1 0) 登山口の簡易トイレ



(写真 1 1) 簡易トイレの男性小便器



(写真 1 2) 簡易トイレの中

⑨ニペのトイレブースはいつ見ても格好いいですね。支えのロープの張り方も若干のたわみがあり、強風に耐えられるように工夫されているのかなと思います (写真 1 3)

⑩ドアがここまでしか開きませんでしたが、座る所までは関係ないので位置はそのままにしておきました (写真 1 4)

⑪ニペのブースは雨の日は中で傘を使わなければならないのです。なんか面白い使い方になりそうです。ま、ニペらしいワイルドさが気にいっていますがね (写真 1 5)

⑫トイレブースを支えるワイヤーのアンカーも強風に耐えられるように、工夫がされています (写真 1 6)



(写真13) 前天狗にある携帯トイレブース



(写真14) ドアがここまでしか開かないが、支障なく使える



(写真15) 屋根なし携帯トイレブース



(写真16) 携帯トイレを支えるアンカー

3. 旭岳トイレ調査(2015.8.29)

- ①旭岳避難小屋のトイレブース内部。汚れてもいないが、ロープウェイが近いせいか使われている感じもあまりない(写真17)
- ②旭岳トイレブース。便座も網面下も汚れていない。地区のパトロールが清掃しているのかも(写真18)
- ③便座も床面も非常に清潔感がある(写真19)
- ④シンプルなデザインの利用方法で分かりやすい。このデザインもあまり見ていない(写真20)
- ⑤やはり豪雨により露出し始めた土中のゴミだが、ビニール袋に入っている。比較的新しいものもあるようだ(写真21)
- ⑥裏旭野営場の積年のゴミが露出している。(多分8月の豪雨かと)掘り出すにはかなりの時間と人手が必要かと思われる(写真22)



(写真17) 旭岳石室携帯トイレブース



(写真18) 携帯トイレブース内部



(写真19) 携帯トイレブース内の便器



(写真20) 携帯トイレ使用方法



(写真21) 周辺の散乱ゴミ



(写真22) 裏旭野営場の積年のゴミ

4. 白雲避難小屋トイレ調査(2015.8.9)

- ①白雲岳避難小屋とトイレの佇まいは8月の空に映えて、大雪らしい撮影ポイントとしても格好の被写体でもある。遠景からも近くに寄っても山の風景に溶け込んでいる(写真23)

- ②白雲岳テン場はいつもテン場らしく清掃されている。手前の石山はテントの抑え石で、ここまで整理されていると、引き上げの際もここまで持ってくる（写真24）
- ③このトイレはEM菌使用のトイレで、具体的に協力内容も説明されている。のだが…（写真25）
- ④トイレの内部は本当によく清掃されている。管理人在中と不在の差が一番よく出ている場所のひとつかもしれない（写真26）



（写真23）板垣新道分岐から見た避難小屋とトイレ



（写真24）白雲岳テン場



（写真25）EM菌利用トイレの掲示



（写真26）管理人さんの清掃で便器は真っ白

- ⑤外国人の宿泊者が多くなっている事の一つの証拠なのか。この表記は外国人だけへのメッセージではないが英文表記のマナーを掲示する時代になってきている（写真27）
- ⑥便槽内部は概ね良好でした。問題はこの裏側にある汲み取り用の取りだし口に溜まっているゴミ、布類、何かの袋等のいつものマナー違反の多様な廃棄物（写真28）
- ②もうこのトイレ裏側取出し口は、8月下旬にかけて管理人さんのすごいご苦勞でゴミが汲

み取られました。メッシュの袋に入れられて、回収を待っています（写真29）



（写真27）外人が多くなっているからか？



（写真28）便器から見た便槽。ゴミが殆どない



（写真29）管理人さんが投棄ゴミを尿尿取り出し口に掻き集めた

5. 富良野岳（十勝岳温泉）登山口トイレ調査（2015.8.19）

- ①富良野岳登山口の携帯トイレ回収ボックス。登山口の横にあり、分かりやすい（写真30）
- ②携帯トイレ回収ボックスは設置されてまだ新しいのか、トイレの会のPRチラシもまだ付けたばかりのように見えました（写真31）
- ③回収ボックスの解錠番号は回ってきたどのボックスも530（ゴミゼロ）で、統一されておりました（写真32）
- ④ボックスの内部は、洗濯籠に入れるようになっていて清潔感があります。が少しゴミも入

っていました（写真33）



（写真30）富良野岳登山口の回収ボックス



（写真31）携帯トイレ回収ボックス



（写真32）回収ボックスのダイヤル錠



（写真33）回収ボックスの中

⑤携帯トイレ回収数をカウントしていました。初めての使用形式です。どなたがご苦労なさっておられるのでしょうか？（写真34）

⑥携帯トイレの回収個数カウンター。固定されていなくて、撮影も設置するのに少し苦労しました。この方法でカウンターを押してくれるのか疑問です…（写真35）

⑦トイレと関係ありませんが、登山届名簿が湿っていて、当日の記入ページを表面にするのに破れそうになっていました（写真36）

⑧登山届デスク上部には回収ボックス解錠の数字530が明示されておりました（写真37）



(写真34) 回収ボックスの重石と利用カウンター



(写真35) 利用数カウンター



(写真36) 登山届ボックス



(写真37) 登山届扉を開くと鍵NO明示

6. カミホロ避難小屋トイレ調査 (2015.8.19)

- ①写真は平井裕子さん撮影 (2014.8.16) (写真38)
- ②右側トイレ内部ドアに貼付してあるお願い事項と内部からの施錠方法です。ロープで施錠するのではなく上下式の施錠です (写真39)
- ③左側トイレ内部からの施錠部品が破損していて、施錠できません。せめて表のドアに使用中の札くらいがあればいいのですが、ありませんでした (写真40)
- ④カミホロのトイレは陶器でなく、昔風の板張りトイレ。老朽化してくると前の黒岳トイレのように、落ちないかヒヤヒヤして使用することもありそうです (写真41)
- ⑤トイレ使用の注意事項張り紙と使用カウンター。カウンターの数字は信用できそうな、そうでもないような… (写真42)
- ⑥トイレの使用回数は1982回。信用できるか否か微妙な数字となっております (写真43)
- ⑦右側トイレ便槽内部です。携帯トイレ袋や瓶などのゴミもありますが、比較的良い方です。残念ながら携帯トイレが投棄されていました (写真44)
- ⑧左側の便槽内部もひどいものでした。でもバケツは誰かが清掃時に使って、落ちたのかも

しません（写真４５）



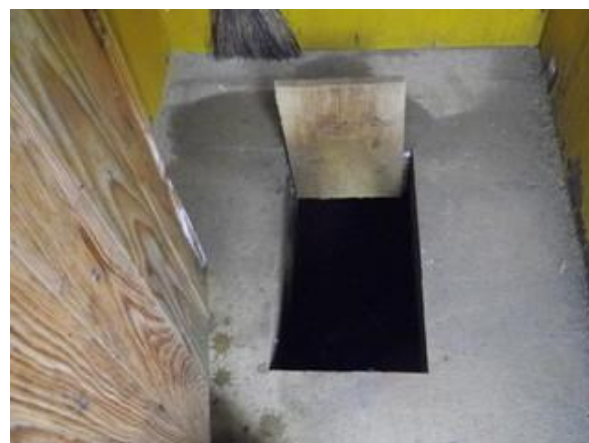
（写真３８）カミホロ避難小屋トイレ



（写真３９）トイレのドア



（写真４０）トイレ内の錠は破損



（写真４１）昔風の板張りトイレ



（写真４２）注意掲示板と利用カウンター



（写真４３）利用数カウンター



(写真4 4) 右側の便槽内を写す



(写真4 5) 左側の便槽内

5. 芦別岳トイレ調査 (2015.8.9)

- ① 芦別岳新道登山口と登山者名簿。ここには携帯トイレの回収ボックスも簡易トイレ設置されていません (写真4 6)
- ② 旧道コースは登山道整備をしていません。との注意喚起貼り紙。登山者の 90%以上は新道利用のようです (写真4 7)
- ③ 登山者名簿への記入は強制されていませんが、殆どの登山者は記入しています (写真4 8)
- ④ うーん、ま、これはしかたないかなあ (写真4 9)



(写真4 6) 新道登山口と入林届ボックス



(写真4 7) 旧道は登山道整備していない旨の掲示



(写真48) 入林届けボックスの扉裏



(写真49) 熊の糞

6. 夕張岳トイレ調査(2015.8.24)

(その1) 登山口駐車場裏のトイレ

- ① 駐車場裏手側にある簡易トイレ。清掃用の水貯留タンクのようなものがある(写真50)
- ② 簡易トイレ自体は建設用資材で、がっちりとガードされておりました。さらにトイレ上部には屋根まで架けられておりました。→このトイレの所有者は夕張市。三角屋根は積雪に耐えるために造ったとのこと(ユウパリコザクラの会の河村健さんに確認)(写真51)
- ③ 水槽内部よりの汲み取り用柄杓がある所を見れば、やはり清掃用水の水槽かと…
→このタンクはヒュッテの尿をここまで運び一時貯留するタンク。その後バキュームで搬出される(河村健さんに確認)(写真52)
- ④ トイレの施錠はしっかりとしていて、女性も安心して利用できます(写真53)
- ⑤ 簡易トイレ内部は、意外と清掃されていました。地元の関係者等のご苦労なのかもしれません。木製の蓋がきれいに納まっていました(写真54)
- ⑥ 蓋を取ってみると便槽内部はゴミ等も少なく、他のトイレよりも比較的キレイに使っているように思いましたが、便器周囲はどうしてこうなるのでしょうか?(写真55)



(写真50) 登山口駐車場裏のトイレ



(写真51) 補強され屋根まであり



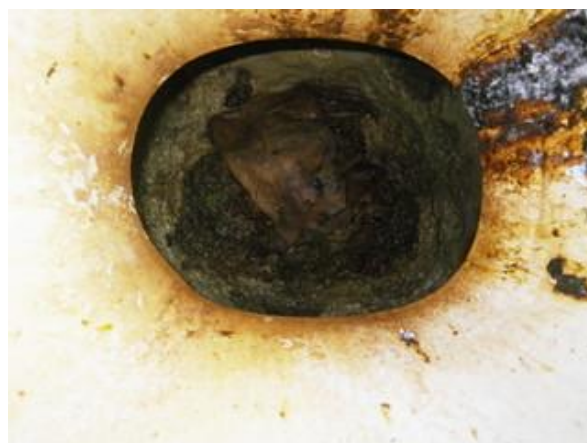
(写真5 2) ヒュッテの尿一時貯留用タンク



(写真5 3) トイレのドアノブ



(写真5 4) トイレの中



(写真5 5) 便器から見た便槽

(その2) 夕張岳ヒュッテのトイレ

- ①新装なった夕張岳ヒュッテ、左手赤屋根が本館、右手組み立て中の炊事棟で、その裏手にトイレがあります(写真5 6)
- ②トイレ全景。キャパの割には小型で機能性を十分に検討した結果が出ている(写真5 7)
- ③トイレ下部は汚物回収用のドラム缶や硬質の塩ビ容器が設置されており、回収も車輛が行けるので他の山小屋トイレなどと比較すればはるかに楽だと思われる。→バキュームカーはここまで来ることができないので、登山口駐車場まで尿尿をユウバリコザクラの会で運搬(河村健さんに確認)(写真5 8)
- ④固液分離型の便器の形。前方が小便器で階下のドラム缶に繋がっているようです。
→もう一つ洋式の固液分離便器のトイレがある(河村健さんに確認)(写真5 9)
- ⑤固液分離型改良バイオトイレを使用しており、説明書が内部に貼付してあります。オガクズ使用ではなくモミガラ散布で、使用後にモミガラを一つかみ散布と書いてあります(写真6 0)

⑥清掃用の資材も揃っており、使用者へトイレを汚さないという注意喚起を促す一役にもなっていると思われる（写真6 1）

⑦使用後はモミガラを播くようにという注意書きが貼ってあり、便槽内部からの臭気もあまり強くない（写真6 2）

⑧男性用便器も一箇所設置されており、固液分離に一役買っているようです。当然階下のドラム缶に繋がっています（写真6 3）



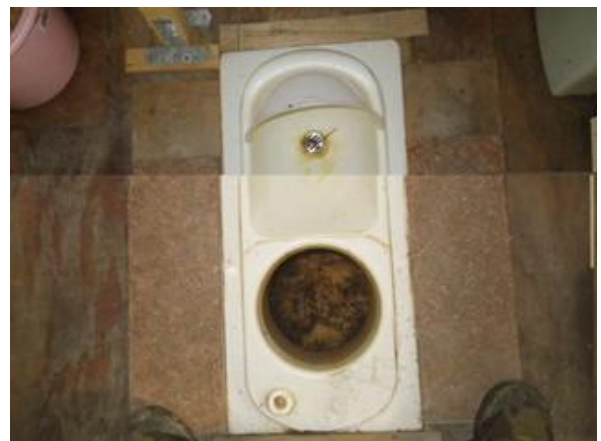
（写真5 6） ヒュッテ本館と建築中の炊事棟



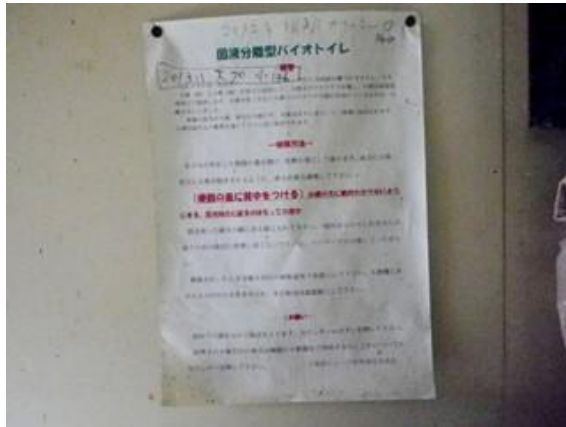
（写真5 7） 炊事棟の裏にあるトイレ



（写真5 8） 大使用タンク 2 個と小用ドラム缶がある



（写真5 9） 和式の固液分離便器



(写真 6 0) 固液分離バイオトイレの説明



(写真 6 1) 使用方法と利用数カウンター



(写真 6 2) 使用後一握みのモミガラ投入



(写真 6 3) 男子用便器

7. 愛山溪温泉トイレ調査 (2015.8.29)

- ①愛山溪温泉、雲井が原の公衆トイレです。愛山溪倶楽部の管理人さんが清掃してくれているので、外見も内部も清潔に保たれております (写真 6 4)
- ②トイレ内部は愛山溪倶楽部の管理人さんが清掃をしており、清潔になっております (写真 6 5)
- ③もちろん、内部の便器も清掃されていて清潔感があります (写真 6 6)
- ④2015 年度より雲井が原湿原は木道の老朽化、歩道の崩壊等の危険があるため通行止めになっています。トイレとは関係ありませんが、報告事項です。登山口から近くて湿原としても一級品の湿原なんですけどね！ (写真 6 7)



(写真6 4) 愛山溪温泉のトイレ



(写真6 5) トイレ内部



(写真6 6) トイレの便器も綺麗



(写真6 7) 雲井が原は通行止

(以 上)

(山のトイレを考える会から)

佐藤文彦氏からメールで提供していただいた山岳トイレ情報を了解を得て当会の仲俣が編集して本資料集に掲載しました。当会のホームページでも紹介しています。